

令和6年度

昭島市立東小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価(総括表)

学校教育目標	◎よく考える子 ◎思いやりのある子 ◎健康で明るい子	【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】	◎子供たちが、安全・安心に楽しく過ごせる学校 ◎家庭・地域と共にある学校 ◎子供たちが、学ぶ喜びを実感できる学校

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	学ぶ楽しさを実感できる授業改善の推進 日常の指導の充実	基礎的・基本的な学習内容の確実な定着	○指導と評価の一体化した授業 ○タブレット端末を活用した授業実践 ○学力調査の結果の分析及び授業改善推進プランの作成・実行 ○全学年で学習目標、学習過程を明確に行う授業	4・4項目全て取り組むことができた	3	4・90%以上の児童が授業が分かったと回答	4	○児童に評価のポイントを伝えることで、目標設定を共有した。 ○タブレット端末を活用した授業を行ったが、時間配分に課題が残った。 ○指導と評価の一体化した授業に取り組んだ。定着が不十分な際はすぐに授業改善に取り組んだ。 ○評価内容(項目)明確ではなかった。 ○基礎的・基本的な学習内容の定着に取り組んだ。	A	○ルーブリック評価を取り入れ、自己評価する機会を増やす。 ○タブレット端末の効果的な活用方法について研究する。 ○タブレット端末を使った授業を計画的に行う。 ○振り返りの時間を十分に確保する。 ○日々の児童の評価を欠かさず記録する。	
				3・3項目は取り組むことができた		3・80%～90%未満の児童が授業が分かったと回答					
				2・2項目は取り組むことができた		2・70%～80%未満の児童が授業が分かったと回答					
				1・1項目は取り組むことができた		1・70%未満の児童が授業が分かったと回答					
	読書に関する指導や読書の習慣化への取組を日常化した読書活動の充実	○朝読書の計画的な取組 ○読書月間の取組の充実 ○図書支援委員の有効活用 ○授業での図書資料の活用	4・4項目全て取り組むことができた	2.9	4・95%以上の児童が30分以上の読書をしていると回答	1	○支援員の協力で、ふだん読まないような本にも関心をもつ児童が増えた。 ○授業に図書資料を計画的に取り入れた。 ○朝読書の時間を確保した。	B	○調べ学習の手段として図書資料を活用できるようにする。 ○図書時間の十分な確保と静かに読書できる環境整備を行う。 ○担任による読み聞かせを計画的に行う。 ○図書支援委員の役割と責任を明確にする取組を行う。 ○家庭での読書の習慣化定着のために保護者会等で情報共有を行い連携・協力して行く。		
			3・3項目は取り組むことができた		3・90%～90%未満の児童が30分以上の読書をしていると回答						
			2・2項目は取り組むことができた		2・80%～85%未満の児童が30分以上の読書をしていると回答						
			1・1項目は取り組むことができた		1・80%未満の児童が30分以上の読書をしていると回答						
	多様性に応じた指導、インクルーシブ教育の推進	○校内委員会の充実 ○大空教員との連携 ○ユニバーサルデザインを意識した環境づくり ○個に応じた教材・教材の工夫	4・4項目全て取り組むことができた	3.4	4・90%以上の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答	4	○校内委員会を通じて理解を促して授業を行った。 ○おおいの集点を活用することで、全員が積極的に取り組んだ。考えたりできた。 ○個に応じた児童の配置、教材の作成や特別支援教室や他校の教員と相談し作成した。 ○個別の教育支援計画・指導計画を基に指導内容を個別の改善を図った。 ○児童教材の活用、指導の明確化などにより授業づくりをした。	A	○研究協議を通じて、授業でのユニバーサルデザインへの知見を高めていく。 ○特別支援教室や他校との連携を強化する。 ○個に応じた指導・教材の活用を確保するためにスケジュール管理をしっかりと行う。 ○担任と特別支援教室担任との連携、児童への支援・理解を充実させる。		
			3・3項目は取り組むことができた		3・80%～90%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答						
			2・2項目は取り組むことができた		2・70%～80%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答						
			1・1項目は取り組むことができた		1・70%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答						
豊かな心	自然体験活動や福祉体験、勤労体験活動等の豊かな体験の場を設定し、人と関わり合いの中で、子供の内面を育てる道徳的な指導の実践	道徳全体計画、年間計画の見直しと「特別の教科 道徳」の授業改善と充実	○教職員同士による授業参観 ○道徳的価値や内容項目を明確にし、児童の考えを見える授業の実践 ○全教育活動を通じた道徳教育の実施	4・4項目全て取り組むことができた	2.8	4・90%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答	4	○教科書以外の教材を生かした授業づくりを積極的に行った。 ○授業を参観できなかった。 ○OJTで子どもを道徳科の授業で実践した。	A	○教科書以外で児童の生活を生かした授業づくりを積極的に行ったことは事例にできる。 ○他の学年や学年、他校への参観の時間をしっかりと確保できる環境づくりにより一層磨きを深めている。 ○個人の意見を否定することなく他の意見を受け入れて考えている。その場だけでない新しい生活を生かしている。	
				3・3項目は取り組むことができた		3・80%～90%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答					
				2・2項目は取り組むことができた		2・80%～85%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答					
				1・1項目は取り組むことができた		1・80%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答					
	いじめの未然防止と早期発見、早期対応を推進し、安全で安心な学校の表現	○毎学級のアンケートを生かし、スクールカウンセラーや専門機関と連携し、いじめや事故の未然防止を図る。 ○迅速かつ適切な情報共有による組織的な対応	4・アンケート実施後の個別対応100%	4	4・不登校(傾向を含む)人数0人	3.8	○アンケート等で得た情報を校内で共有し、どのように対応すべきか管理職等と相談して対応した。 ○保護者にスクールカウンセラーへの相談を勧めた。 ○スクールカウンセラーからの専門的な意見が参考になった。 ○アンケートの聞き取りから個別対応を行った。	A	○いじめに関しアンケート等を活用して対応したことは、よい方だと思える。 ○いじめの未然防止の取り組みができていて、とてもよい結果が出ている。 ○保護者にスクールカウンセラーへの相談を勧めた。 ○スクールカウンセラーからの専門的な意見を参考にした。 ○アンケートの聞き取りから個別対応を行った。		
			3・アンケート実施後の個別対応95%		3・1人						
			2・アンケート実施後の個別対応90%		2・2人						
			1・アンケート実施後の個別対応85%		1・3人						
	学校行事等を通して異学年間での交流を深め、豊かな人間性の育成	○交流体験活動の実施 ○実践的体験活動の実施 ○栽培体験学習の実施 ○縦割り班活動の実施	4・4項目全て取り組むことができた	2.9	4・90%以上の児童が学校が楽しいと回答	3	○縦割り班活動でいろいろな学年と交流が深まった。 ○栽培体験学習が十分に行なわれた。 ○学校行事によって異学年交流の充実が図れた。 ○児童の意見が活かされている。 ○児童の意見が活かされている。 ○児童の意見が活かされている。	A	○縦割り班活動でいろいろな学年と交流が深まった。と回答している。 ○栽培体験学習が十分に行なわれた。 ○学校行事によって異学年交流は積み重ねが必要なので継続して行う。 ○今年度開始した縦割り班活動を推進していく。 ○特別支援教育コーディネーターとの情報共有を密にし、校内の児童の実態を把握し、専門的な助言を行う。		
			3・3項目は取り組むことができた		3・80%～90%未満の児童が学校が楽しいと回答						
			2・2項目は取り組むことができた		2・70%～80%未満の児童が学校が楽しいと回答						
			1・1項目は取り組むことができた		1・70%未満の児童が学校が楽しいと回答						
健やかな体	様々な運動を体験させて、その特性に合った運動技能を身に付けさせる体力向上の実践及び健康教育・食育の推進	学年や学級、異年齢集団での遊びの奨励	○休み時間の外遊びの奨励 ○運動に親しみやすい環境整備 ○運動会を活用した児童の運動の楽しさを伝える ○運動会を通して児童の運動の楽しさを伝える	4・毎週子供たちと一緒に遊ぶ時間の確保3回以上	3.2	4・90%以上の児童が遊ぶ機会を確保できたと回答	2	○子供と一緒に遊ぶのは、よいことだと思う。 ○個別の対応、委員会の指導等で十分に遊ぶ時間を確保できなかった。 ○担任の教員が休み時間に児童と一緒に遊んでいる学級は外に出て遊ぶ児童が増えている。 ○可能な限り児童と一緒に遊ぶようになっている。	A	○児童と一緒に遊ぶのは、よいことだと思う。 ○先生方の体を使った努力が、十分に足りていない。 ○担任の教員が休み時間に児童と一緒に遊んでいる学級は外に出て遊ぶ児童が増えている。 ○可能な限り児童と一緒に遊ぶようになっている。	
				3・2回		3・80%～90%未満の児童が遊ぶ機会を確保できたと回答					
				2・1回		2・70%～80%未満の児童が遊ぶ機会を確保できたと回答					
				1・0回		1・70%未満の児童が遊ぶ機会を確保できたと回答					
	年間を通した体力向上への取組(「元氣アップガイドブック」等の活用)	○元氣アップガイドブックの活用及びタブレット端末を活用した体力向上への取組 ○栽培体験学習の実施 ○元氣アップガイドブックの活用及びタブレット端末を活用した体力向上への取組 ○元氣アップガイドブックの活用及びタブレット端末を活用した体力向上への取組	4・4項目全て取り組むことができた	2.6	4・90%以上の家庭が体力向上に満足と回答	1	○子供たちが楽しんでいて、家でやる習慣が身についた。 ○子供たちが楽しんでいて、家でやる習慣が身についた。 ○子供たちが楽しんでいて、家でやる習慣が身についた。 ○子供たちが楽しんでいて、家でやる習慣が身についた。	B	○委員会の活動で外で遊ぶ取組を増やす。 ○委員会の活動で外で遊ぶ取組を増やす。 ○委員会の活動で外で遊ぶ取組を増やす。 ○委員会の活動で外で遊ぶ取組を増やす。		
			3・3項目は取り組むことができた		3・80%～90%未満の家庭が体力向上に満足と回答						
			2・2項目は取り組むことができた		2・70%～80%未満の家庭が体力向上に満足と回答						
			1・1項目は取り組むことができた		1・70%未満の家庭が体力向上に満足と回答						
	食育の充実	○ランチルームの計画的な有効活用 ○食育指導員や栄養士による食育指導 ○地域の人材や資源を活用した食育に関する授業の実施	4・年間食育に関する授業の実施3回以上	2.2	4・1年間の食育率7%	3	○家庭科や給食の時間で食育の授業を行った。 ○家庭科や給食の時間で食育の授業を行った。 ○家庭科や給食の時間で食育の授業を行った。 ○家庭科や給食の時間で食育の授業を行った。	B	○家庭科や給食の時間で食育の授業を行った。 ○家庭科や給食の時間で食育の授業を行った。 ○家庭科や給食の時間で食育の授業を行った。 ○家庭科や給食の時間で食育の授業を行った。		
			3・2回		3・1年間の食育率8%						
			2・1回		2・1年間の食育率9%						
			1・0回		1・1年間の食育率10%						
輝く未来	人権尊重の精神を基調として心身ともに健康な児童の育成を目指す。児童の権利と義務、自由と責任についての認識を深める。また、児童が未来を生き抜く力の育成	一人一人のよさを生かし、意欲とまじりあうある学級集団づくり	○学級経営の振り返り・改善・評価 ○児童の考えや意見を大切に教育活動に活かす。 ○学級経営や授業改善・評価・改善 ○児童の考えや意見を大切に教育活動に活かす。	4・4項目全て取り組むことができた	2.7	4・QUの結果で各学級の要支援層0人	3	○毎週学級経営の振り返りを行い、要支援の指導へつなげた。 ○一人一人のよさを認め、課題については確実に伝えている。 ○一人一人のよさを認め、課題については確実に伝えている。 ○一人一人のよさを認め、課題については確実に伝えている。	A	○特別支援で児童の悩みを解決する機会を増やしていく。 ○支援が必要な児童一人一人を理解し、きめ細やかな指導を行ったり、特別支援教育の研修や特別支援教室の教員を講師に校内で研修を行う。 ○共通理解を継続していく。	
				3・3項目は取り組むことができた		3・1人					
				2・2項目は取り組むことができた		2・2人					
				1・1項目は取り組むことができた		1・3人					
	学級活動を中心に、全教育活動におけるキャリア教育の充実	○学校生活への適応 ○仲間づくり、集団の結束 ○自分役の自覚 ○年間指導計画に応じたキャリア教育の実践	4・4項目全て取り組むことができた	3.2	4・90%以上の児童が得意・ものを考えると思える	3	○学校行事を通して協定校と物事に取り組むことの大切さを学んだ。 ○学級活動や課外活動で、仲間づくりや集団の結束について意識が深まった。 ○学級活動や課外活動で、仲間づくりや集団の結束について意識が深まった。 ○学級活動や課外活動で、仲間づくりや集団の結束について意識が深まった。	A	○小中連携での行事は、よいことだと思う。 ○学級活動や課外活動で、仲間づくりや集団の結束について意識が深まった。 ○学級活動や課外活動で、仲間づくりや集団の結束について意識が深まった。 ○学級活動や課外活動で、仲間づくりや集団の結束について意識が深まった。		
			3・3項目は取り組むことができた		3・80%～90%未満の児童が得意・ものを考えると思える						
			2・2項目は取り組むことができた		2・70%～80%未満の児童が得意・ものを考えると思える						
			1・1項目は取り組むことができた		1・70%未満の児童が得意・ものを考えると思える						
	保護者・地域と連携し、様々な活動を通して、将来への希望をもたせる	○地域の人材を活用した取組の充実 ○家庭訪問・個人面談の実施 ○専門機関との連携 ○PTA活動への理解と協力	4・4項目全て取り組むことができた	2.8	4・90%以上の児童が将来について考えると思える	2	○個人面談で家庭と児童の情報を共有を行った。 ○開校10周年記念集会で開校当時の卒業生の地域の方にお話をいただいたのは、愛校心や地域への愛着を感じるうえでとてもよかった。 ○PTAの活動に参加できた。	A	○地域との連携がしっかりとできていて評価できる。 ○多くの地域や保護者以外の人と接することでの成長が感じられる。 ○PTAだけでなく、日頃から学校や地域と連携して親子で体験できることを増やせばと思う。以前からなかったような機会が増えていると思う。		
			3・3項目は取り組むことができた		3・80%～90%未満の児童が将来について考えると思える						
			2・2項目は取り組むことができた		2・70%～80%未満の児童が将来について考えると思える						
			1・1項目は取り組むことができた		1・70%未満の児童が将来について考えると思える						